

平成27年度「森林の調査隊!! フォトコンテスト」入賞作品の紹介



【メッセージ】

国立公園の色々な規制のある中、平成4年から大山にブナを植える活動が始まり、種を拾い、苗を育成し、5年育て、毎年10月下旬に行うブナを植える体験林業には沢山の仲間達と200本位ずつ大山に帰ってきています。そうして植えたブナは2,800本になりました。

第1回目に植樹したブナは22年にもなり、生意気にもブナ林の片鱗を見せてきました。経験で得た事として、夏草の2mに耐え得る苗木のノウハウは1.5m位に育ったものでなければ、厳しい環境の下では生きられません。(経験農学)

写真1の説明 苗の床替作業は親子連れが主力で頑張ります。水掛けや藁敷きになると更に子供達が一層頑張ってくれました。

写真2の説明 2m近く生長したブナ。いよいよ山に帰してやる日が来ました。「頑張れよ」と声を掛けながらの作業です。

写真3の説明 ブナを植える体験林業「誰もが1本」を合い言葉で、私達家族も4本「早く大きくなれ」と願いを込めて植えました。

近畿中国森林管理局局長賞

『植えよう増やそうブナの森』大山横手道上ブナを育成する会 前田 宗孝 様 (鳥取県鳥取市)

里山賞

『偶然の出会い②』 川部 由美子 様

(大阪府箕面市)

【メッセージ】

写真① 箕面固定公園では、様々な野鳥を見ることができます。これは、オオルリという春に南の国から日本に渡ってきて繁殖し、秋に去っていく夏鳥です。毎年この木のこの枝で見ることができましたが、この2・3年なかなか見れなかったため、この日も諦めて通過しようとした瞬間、右の方からスーッと飛んでくるものが見え、まさかと思うとなんとそのオオルリでした!!

夢中で写真を撮っていると後ろを通られた方が、“わぁー、久しぶりですね。ここで見れるの…!でも、こういう時に限ってカメラ持ってないのよねー”と言いながら目を輝かせて見てくれました。

写真② 箕面といえばサルが有名ですが、今では本来の野生生活に戻れるよう、サルを自然に帰す運動が行われている為、滅多に見ることがありません。その分、遭遇すれば驚き! → 興奮! → 緊張! です! この時は川の向こう側の木にいて、目を合わせないようにチラチラ確認しながら見ていると、木の実をつかんで食べ、のそのそ歩き出し、そのうちまるで撮ってくれといわんばかりにポーズを決めてこちらを見てくれました! ラッキーな瞬間でした!

写真③ 箕面川でアオサギが優雅に飛んでいました。すると、山の方へ飛んで行き、どこまで飛んで行くのか目で追っていると止まってくれた所がベストポジションで、まるで絵画を見ているようでした。早朝で辺りには誰もいず、静寂した森の中、暫し息のみシャッターを押し続けました。

今回の作品のテーマ“あなたが感動し、伝えたい森林での発見!!”を目にした時、沢山あり過ぎて写真を選べないと思いました。それぐらい、森林の中では人間が決して作り出せない瞬間の美しさ、出会い、感動があります。驚きの連続です。これからも身近な森林に足を運びいろいろなことに興味をもって写真を撮り続けたいと思います。

審査員特別賞

『森林の虫。めっちゃ楽しい』 三木 煌太 様

(小学生・大阪府東大阪市)

【メッセージ】

ぼくは虫取りが大好き。森林は、いろんな生き物がいてほくに力を与えてくれる場所です。とくに水生昆虫のタガメが一番好きです。タガメをさがしていると、いろんな生き物に出会います。そして虫を見つけると、しんどいときも「シャキーン」と元気が出ます。虫を観察していると、虫にも命があるんだなあと感じます。これはパパが教えてくれた「命の大切さ」。ぼくは森林の虫からたくさん学んで元気にすごせるようになりました。森林の虫めっちゃ楽しいよ。元気があってありがとう。





森林の調査隊!! フォトコン賞

『知床の森』 森田 章 様 (埼玉県川口市)

【メッセージ】

北海道を旅して知床半島の森林ツアーを体験しました。ヒグマの活動期であったためガイドつきの知床五湖周辺を巡るコースでしたが当日は天候に恵まれ、蚊の大群に歓迎されながらも知床の森の自然を満喫することができました。

世界自然遺産の知床では植物の育成やヒグマの生息環境を維持しながら自然を守るため、何も持ち込まない、何も持ち出さない等多くの取り組みが行われておりました。

遊歩道を歩いていると樹木に深く刻まれたヒグマの爪痕に心ときめき、樹木の害虫を捕食してくれる「森のお医者さん」とも言われているキツツキの鳴き声を耳にし、湿地帯に青々と茂ったミズバショウの群生地に心を癒やされ、倒木の上に芽吹いた幼木に森の世代交代が循環しているのを感じながら、木々の間から眺めた雄大な知床連山が湖に映った姿は圧巻でした。



森林の調査隊!! フォトコン賞

『天然林の散策(根上がりの木)』

湯川 喜義 様 (長野県木曾郡木祖村)

【メッセージ】

天然林は、人工林と比べて、次のような特徴があります。

- ・ 樹種がまちまちである。針葉樹や広葉樹が混在している。
- ・ 樹齢もまちまちである。若い木や老いた木が混在している。
- ・ 木の生えている間隔が揃っていない。間隔が広いところや狭いところがある。

- ・ 『根上がりの木が見られる。』根が地面から浮き上がっている。
- ・ 見た感じがすっきりしていない。枝打ちをしていないことや、二股や三股の木が見られる。

中でも『根上がりの木』は、異様であり、また特徴のある形をしています。今回は、この『根上がりの木』の観察に森林へ出かけました。

まず、目に飛び込んで来たのは、二つの根で斜面で踏ん張っている木です。

「どうして、こんな姿の根になったんだろう。」「木の重さを良くこれで支えているなァ。」

「森林って不思議なことが多いね。」など、多くの感想が聞かれました。次に出会った木は、『根上がりの木』の形が、苔が生えていて、何やら動物のような形をしている木です。

「熊が散歩している姿だ。」「いや、ジャガーが睨みつけている形である。」「いや、象の姿で鼻を持ち上げているところだよ。」など、それぞれに違った意見が続出しました。

森林(もり)の中を実際に歩いてみると、想像力が掻き立てられる現象が多く見られます。

森林(もり)も、一生懸命生きている姿を見てもらいたい、と考えていると思います。もっと、森林(もり)に出かけ、ストレスに負けないパワーをもらいましょう。



森林の調査隊!! フォトコン賞

『まほうの木』 豊里 萌果 様 (中学生・沖縄県石垣市)

【メッセージ】

私の住む八重山は、自然が沢山あります。

今回のこの写真は宿泊学習でいった西表島でとった写真です。

船で仲間川をわたり、その森の上流でこの「まほうの木」に出逢いました。

根っこがヒラヒラしていてまるで扇子みたい。

大きくて生き生きとして、パワー溢れる「まほうの木」。

その姿に感動した私は、思わずシャッターを押していました。

この感動を与えてくれるこの場所をこれからも守り続けていきたいです。

当センターでは、入選作品をカレンダーに編纂してお配りしますので、皆さんお楽しみに!



林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター

TEL:06-6881-2013/FAX:06-6881-2055

〒530-0042 大阪市北区天満橋一丁目8-75 近畿中国森林管理局 3F

URL:http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/